

群馬人権映画祭 オンライン上映会

Human Rights Movie Festival in Gunma 2025

ヒューマンライツ・ムービーフェスティバル in ぐんま

2025.12.14 [SUN]

オンライン開催

申込制：無料（先着 500 名限定）

申し込み方法：専用フォームからお申し込みください。

申込期間：11月8日（土）から12月10日（水）23:00まで。

定員に達し次第申し込み終了

映画の配信は、お申込みいただいた方へ視聴方法を前日までに
ご案内いたします。



【配信作品】2025年12月14日0:00から23:59まで限定配信

上映 1

『ムイト・プラゼール』

監督・脚本・編集：朴正一（2022年61分）

上映 2

『NOVA』

監督・脚本：寺田悠真（2025年25分）

トーク 1

共に生きる社会 一人を理解するとは一
朴正一監督 × 飯塚花笑監督

トーク 2

社会に必要な寛容と包容
飯塚花笑監督 × 真田怜臣（俳優）



オンラインにて上映を行います。申込方法や上映作品の詳細については、特設 WEB サイトにてご確認ください（右記 QR コードまたは以下の URL からアクセスいただけます）。

申し込みフォームから必要事項を入力・送信後、受信確認で返信メールをお届けします。

お申込みから3日以内に返答がない場合は たかさきコミュニティシネマまでご連絡ください。

URL: <https://hrmf-gunma.com/>

【お問い合わせ先】

企画に関するお問い合わせ：群馬県生活こども部生活こども課人権同和係 TEL.027-898-2687 / seikatsuka@pref.gunma.lg.jp

作品や申込に関するお問い合わせ：たかさきコミュニティシネマ（シネマテークたかさき） TEL.027-325-1744 / info@hrmf-gunma.com



Human Rights Movie Festival in Gunma 2025

「人権」は、誰にとっても身近で大切なものです。しかし、「人権の世紀」と言われる21世紀になった現在でも、同和問題を始め、女性に対する暴力、いじめや児童虐待、高齢者・障害者に対する偏見や差別など、様々な人権問題が依然として起きています。また、最近ではインターネットによる人権侵害やヘイトスピーチ、LGBTQ等の性的少数者に対する偏見や差別、更には新型コロナウイルス感染症に関連した不当な差別、偏見、いじめなど新たな課題も発生しています。こうした中、群馬県では「第2次人権教育・啓発の推進に関する群馬県

基本計画」に則り、県民一人一人の人権を尊重し、だれもが暮らしやすい社会を作るため関係機関等と連携し施策を推進しております。今回の「ヒューマンライツムービーフェスティバル in ぐんま」はこうした取組の一環として開催するものです。県民のみなさんが広く、どこでも、だれでも、参加可能なイベントを目指し、オンライン開催といたしました。2021年の初開催以来、毎年世界人権デー（12月10日）に合わせて実施しています。



『ムイト・プラゼール』

監督・脚本・編集：朴正一（2022年 61分）

撮影：宮永智基 音楽：山本恭介 録音：落合諒磨
出演：鄭順栄 Debora Barbosa Eguchi Rodrigo Sato
藤井美音 山崎悠稀 河邊一敏

高校教師、金本は顧問である国際交流部の部員を連れて、茨城にある日系ブラジル人学校に訪問することを決める。一方、ブラジル人学校では日本人学校に転入したはずのアマンダがイジメにあい、戻ってき

てしまう。度重なる日本人からの差別やイジメに耐えかねたブラジル人生徒たちは怒りを持って金本達を迎えることになる。ロケーションは群馬県にある日系ブラジル人学校にて敢行。出演者には在日コリアンである主演の鄭順栄をはじめ、生徒役も日系ブラジル人達（実際の在校生・卒業生）が演じ、当事者の表象を目指した配役となっている。

『NOVA』

監督・脚本：寺田悠真（2025年 25分）

撮影監督：キム・ジンヒョン 美術・装飾：小林宙央
監督補：吉尾祐紀
出演：西村カリナ／北原 ジョセ ルイス／袴田吉彦／山田キヌヲ／
ブンシリ

イラストの仕事をAIに奪われた日系ブラジル人ジェシカと、アジア人労働者に置き換えられた父親カルロス。激動する時代の中で弾き落とされた日系ブラジル人親子。衝突しながら群馬県大泉町にたどり着いた彼らは、そこで暮らす様々な人々に触れ合うこととなる。親子は共振し合い、自身のアイデンティティに向き合っていく。そして新たな生き方を見つける。



トークゲスト プロフィール



朴正一
監督

1970年生。東京都出身。独学で映画制作の知識を身につける。「ムイト・プラゼール」国内外の映画祭、4つに入選しており、2つの賞を受賞している。現在、在日コリアンとしての自らの体験を元にした初の長編作「雨花蓮歌」が全国劇場にて絶賛上映中。



真田
怜臣

奈良県出身。大学進学とともに18歳で上京。20歳からレストランシアター「六本木金魚」でダンサーとして踊り始め、5年半センターを務める。26歳のとき女優へ転向し、舞台「美少女戦士セーラームーン」や映画「ミッドナイトスワン」など、話題作に出演。11月14日から公開の『ブルーボーイ事件』ではベティ役を務める。



飯塚
花笑
監督

1990年生まれ、群馬県出身。トランスジェンダーである自らの経験を元に製作した『僕らの未来』（11）は、第33回びあフィルムフェスティバル審査員特別賞、第30回バンクーバー国際映画祭ロンドン・レズビアン&ゲイ映画祭など、国内外で高い評価を得た。今、最も注目すべき若手映画監督である。新作「ブルーボーイ事件」が11月14日から全国ロードショー公開。